

神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 第1回学校運営協議会 開催報告

本校の学校運営協議会を次のように開催した。

名称	神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 第1回学校運営協議会
開催日時	令和5年5月16日(火) 9:30~11:00
開催場所	神奈川県立横浜ひなたやま支援学校 ふれあいルーム
出席者	学校運営協議会委員7名 学校事務局8名
次回予定日	令和5年10月下旬(今後調整) 9:30~12:00
問合せ先	横浜ひなたやま支援学校 副校長 鈴木 剛 電話 045-300-5611 FAX 045-303-2330
議題	令和4年度 学校運営協議会 第1回会議についての確認 ・設置部会と今後の進め方 ・年間計画 学校評価部会 ・令和5年度学校教育計画について ・令和5年度不祥事ゼロプログラムについて 切れ目ない支援部会 ・共生社会の実現に向けた取組について
審議(会議)経過	【学校運営協議会】 (1) 会長挨拶 県立学校退職後、障害者支援を続けている。法人は、知的障害のある子どもの入所施設や児童養護施設にも関わっていて、教育に対する関心は失ってないので、お役に立てる意見を言えたらよい。 (2) 副会長挨拶 委嘱状については本日準備が間に合わず、後日郵送か直接届けるか方法を決定してお渡りする。 令和5年度は1年生44名入学、131名在籍、73名の教職員でスタートした。瀬谷、泉、戸塚の居住生徒が6割、大和市、藤沢市の居住生徒が4割。大半が公共交通機関を利用しての通学で地域と共有させてもらっている。お礼を伝えたい。 コロナ対策は換気、手洗いを引き続き行う。マスクは個人の判断としている。 社会・地域に開かれた学校を目指して 地域で子どもたちが豊かに生活していくための能力や資質を伸ばしていく必要がある。その能力資質をどう伸ばしていくのか、どう学習させていくのか、子どもたちにどう意識させていくのか、計画、実践、反省、評価し、学校の役割を理解したうえで教育課程を組んでいく。ま

た、地域とどういう風に関われるのか模索していく必要がある。

(3) 自己紹介

協議委員自己紹介

委員

ひなた山第一自治会は6班ある。このところ地震が群発しているが、ひなたやまは地盤は固いが何かあってはいけないため、防災についても慎重に対応している。

コロナで途絶えていた地域の絆、人と人との絆を再度意識できるように7月29日の夏祭りに向けて計画している。学校へも協力をお願いしたい。

委員

横浜市立の学校でない唯一の防災拠点の学校。防災についてまとめている。

委員

小中高幼稚園特別支援の免許が取得できる大学。2つ以上の免許を取って卒業していく学生が多い。

地域との関りについては部活の場面等で取り組んでいけるのではないかと思われる。

委員

特例子会社、企業側の意見を伝えていきたい。

運営協議会委員としてひなたやまに来ることは、就職してもらえる生徒のスカウトも兼ねている。現在は入社7年目、8年目の卒業生がいるが、その後は入社した生徒がいないので、今後実習も積極的に受け入れ、就職につながればとも思っている。

委員

障害のある子が地域と関わりやすくするための支援をする法人。昨年末から地域との関りが戻ってきている。

子どもたちが自己有用感を高められるように地域との繋がりを深めていきたい。

事務局からの自己紹介 名前、所属、分掌など

(4) 第2回会議についての確認
(事務局)

本日の時程について説明

【学校評価部会】

①令和5年度 学校評価報告書（目標設定）について

各グループより、パワーポイントを使用して今年度の目標、具体的な方策、評価の観点について説明。

<教務グループ GL>

- ・授業参観や授業公開、年間指導計画の書式を評価ができる書式に見直し、授業改善に活かす。
- ・個別教育計画様式2の見直し、アセスメントを個別教育計画に活かす。
- ・縦割りの活動を取り入れコミュニケーション力を高める。

<総務管理グループ GL>

- ・防災教育と職員研修について。
- ・地域の防災訓練への参加、生徒の避難所体験について。

<連携支援グループ GL>

- ・生徒の課題を捉え教科横断的な取り組み。
- ・保護者のニーズの把握と情報発信について。
- ・地域の中での体験的な学習活動の展開について。
- ・校内資源の掘り起こしについて。

<教育推進グループ GL>

- ・主体的・対話的で深い学びの授業の定着。
- ・人権研修（アクセシビリティとユニバーサルデザイン）に取り組む。
- ・生徒指導等研修会（虐待・ヤングケアラーなど）に取り組む。

<質疑応答>

(質問)

開校以来10年、生徒像の変化はあるか。

委員

主観が入る部分はあるが、変化はある。横浜市の高等特別支援学校に近いイメージで立ち上げた部分はあるのかしれないが、今は

就労だけでなく、福祉サービスを利用する生徒も増えてきている。

(意見)

よこひな通信について、4月発行のものが5月2週間ほどかかって回覧される。発行の当月中に回覧ができるように検討していただきたい。

事務局

係に伝える

(意見)

コミュニケーション力の不足を感じる。先輩に話しかけることを苦手とする社員がいる一方、「ため口」的に接してしまう社員もいる。縦割りの中でのコミュニケーション力を高めてほしい。

事務局

他学年との関りの場面を設定できるように考えている。

(意見)

発信する力、聞く力、折り合いをつける力を合わせて高める必要がある。

(意見)

進路指導支援の中でメモを取る習慣化させる取り組みは継続して欲しい。どういう時にメモをとる必要があるのか、自ら判断してメモをとる力も高めてもらいたい。

(質問)

シチズンシップ教育についてどういう取り組みをしているのか。

事務局

政治参加教育、消費者教育、人権教育が3つの大きな柱。

委員

市民として知っておくべき知識技能能力を高める内容と理解できる。

(意見)

高等部に入学すると社会人、市民を意識した学習に急に切り替わる。学年ごとにできるようになっていくのがよいのか(目標を細

かく切ってできたら次の目標と提示していく方法)、最初からゴールを見て学習していく方がよいのか(最終地点を見据え今はここまでできているねという全体像を捉えながら、学習を積んでいく方法)細かく目標設定していく方が生徒にとっては負担が大きく、また、設定する目標が頭打ちになりやすいのではないか。大きな場面を捉え、そこで出せる力をつけていくのがよいのではないか。

(意見)

今の意見は、切れ目ない支援部会の「共生社会の実現に向けて」につながる意見だと思う。生徒が自らに、手ごたえのある装備を持って社会に出ていかなければならない。

(意見)

本校は、高等部のみで、知的障害に特化した学校という特色がある。

SSEを導入して取り組んでいたが、今は取り組んでいるか。効果がある面もあるので継承してほしい。

事務局

今も継続して行っている。

つい先日も校内の SSE の研修で、ライフスキルチェックシートを活用できるように学んだ。

(意見)

学校の部屋を借りることができなかった時期があったが、借りられるようなので、コロナ前の通常の年度に行っていたことは行いたい。

(意見)

シチズンシップ教育等、突然新しい言葉が出てくるが、特別なことでなく、今まで教育の中で行っていた社会の中で使える力を高めるということには変わらない。言葉に振り回される必要はない。

大学生の中でも22歳になって突然どうするとなる学生もいるので、将来のビジョンを持ちながらそこへ向かって紆余曲折あってよいのではないか。すったもんだの時間が大切でその時間の確保が学校でもできるとよい。

SSTを個に視点をあてるだけでなく、集団の中、クラスワイドの視点で(CSST)取り組んでいくと、尺度も変わってくるので効果的ではないか。

	<p>②不祥事ゼロプログラム</p> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度はキーワードを考えた。 <p>「不祥事に対するハードルを下げない」／「自分事として考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故がおきると大きな⑦⑧⑨について特に意識していく。 ・今年度は自分事として考えていくために担当を管理職、GL だけでなく、学校全体の学部や分掌に割り振り取り組んでいく。 <p><質疑応答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>【切れ目ない支援部会】</p> <p>○昨年度までの流れの確認</p> <p>共生社会の実現に向けてというテーマは、切り口、入り口が難しいかとも思ったが、このテーマが出てきた 2021 年 2 月は、コロナ禍からの脱却、人々の不安からの脱却ということが問題になっていた。こうした状況下で、「共生社会の実現」は価値あるテーマだと思った。</p> <p>自分の場所ではこんな取り組みをしている、自分たちなりに共生社会の実現に向けた取り組みをしていることは、委員ごとに確認できた。自分たちが当事者として、どういうステップで取り組んでいくかなどを考えながら共生社会の実現に向けた取り組みを続けていくことがこの後も必要であろう。</p> <p>一方、社会は、今後よりインクルーシブになり、アクセシビリティが高くなっていくし、基本的に多様性が認められていくようになるだろう。本校の「目指す生徒像」は明確になっているが、生徒がこうした新しい社会の当事者として生き抜いていく力を伸ばすことが学校の役割であることは間違いない。3 年間何を積み重ねていくのか、その後どういう風に生きていくのか、そうした根本ビジョンについて学校全体で再確認できるとよい。</p> <p>副会長</p> <p>共生社会に向けた取り組みは不可欠。</p> <p>7 月から体育館使用不可になるが夏祭りの 7/29 夏祭りでのトイレ利用はできる。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
事務連絡	<p>第 2 回学校運営協議会は、10 月下旬、17 (火)、24 (火) でいかがか。7 月 20 日ごろ電話で確認させていただく。</p>